

国際交流基金助成事業報告書

薬学研究科 薬科学専攻
修士課程 2年次生
向井 崇浩

1. はじめに

平成 28 年 7 月 2 日から 7 月 5 日の 4 日間、本学国際交流助成事業の助成を受けて、韓国ソウル市の国際会議場（COEX）（写真 1）において開催された第 46 回日本神経精神薬理学会（JSNP）年会（7/2－7/3）と第 30 回国際神経精神薬理学会（Collegium International Neuro-Psychopharmacologicum: CINP）世界大会（7/3－7/5）に参加し、自身の研究成果について発表させて頂いたので、報告させていただきます。



写真 1、国際会議場正面（左）、内（右）

2. 日本神経精神薬理学会

日本神経精神薬理学会（The Japanese Society for Neuropsychopharmacology; JSNP）は、第一回精神薬理談話会（1971 年）に端を発し、1985 年に JSNP として正式に発足、2015 年からは一般社団法人 JSNP となりました。この間、精神薬理学の学際的研究発表の場としてのみならず、臨床精神医学、薬理学、脳科学の研究者間、さらに最近では臨床薬剤師との情報交換と人的交流の場として活動を続けてきました。また、JSNP は国際精神薬理学会（CINP）やアジア精神薬理学会（AsCNP）の日本の窓口としての役割を果たしており、国際連携を強化するとともに、日本からの学術情報発信にも取り組んでいます。

学会が目標とする到達点は、最新の脳科学を応用した精神・神経疾患の病態解明を通じて、有効性と安全性の高い医薬品開発を試み、さらに臨床研究へと展開することにより、実用性のある精神・神経疾患の薬物療法を確立することです。この実現に向けて 2012 年度には、学会内にトランスレーショナル・メディカル・サイエンス委員会を新設し、アカデミアが製薬企業と密接に連携し、より患者のニーズに合った創薬や迅速な臨床開発などを推進する活動を開始するとともに、産官学連携による創薬研究の推進も図っています。

本年会のメインテーマは「産学官連携と国際連携（Public-private partnership &

International alliance)」であり、研究者や医療従事者、製薬企業関係者、規制当局関係者等、広い分野の方が参加されており、脳神経系の治療薬の研究・開発と適正使用について、議論の場が提供されました。



写真 2、日本精神神経薬理学会の受付

3. 国際神経精神薬理学会

国際神経精神薬理学会（CINP）は、スイスのチューリッヒで 50 年以上前に設立され、真に世界的な組織です。CINP は、世界規模の研究と教育を推進する目的で、世界中の学会を開催しています。

1950 年代のクロルプロマジンとイミプラミンの発見は、精神疾患の治療に革新的な薬物療法をもたらしました。CINP はそれらを発見したヨーロッパの科学者によって 1957 年に設立され、以来、ほぼ 60 年にわたり、CINP は精神疾患の治療のための臨床研究や薬剤開発をリードする最も伝統的、歴史的な、国際学会となっています。

本学会では、FUTURE OF NEUROPSYCHOPHARMACOLOGY～Innovation Integrated with Neuroscience for Mental Health～というテーマで行われ、2,000 名を超える参加者と、充実したプレナリー講演、シンポジウムに加え、800 を超えるポスター発表がありました。



写真 3、CINP のプログラムとネームホルダー

4. ポスター発表

私は、7月3日にJSNPにおいて“Effects of antiepileptic drugs on Kir4.1 channel expression in the rat brain astrocytes.”、7月5日にCINPにおいて“Modulation by cerebellar D₃ receptors of dyskinesia induction in rats.”という演題で2回ポスター発表をさせていただきました(写真4、5)。

JSNP の方のポスターは発表 4 分・質疑応答 3 分の発表時間でしたが、日本語での発表であったため、日本での学会と同様の雰囲気の中で発表することができました。7 分間の発表時間が終わってからも、何人かの方から質問をしていただくことができ、様々な視点からのコメントをいただきました。私も基礎研究の方だけでなく臨床の方の発表を聞き、議論することができ、有意義な時間になりました。

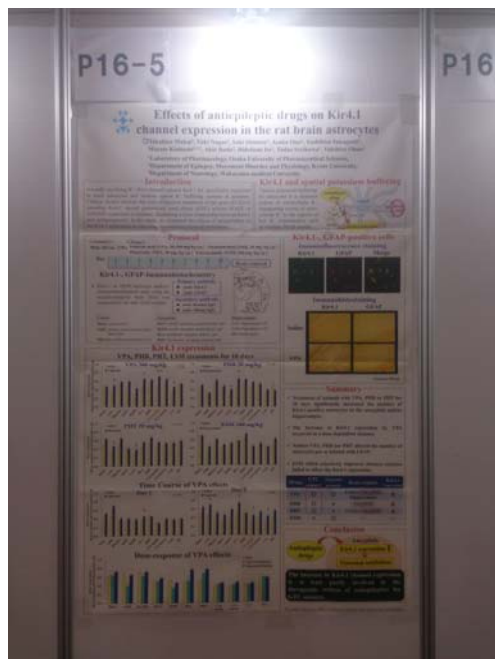


写真 4、JSNP のポスター



写真 5、CINP のポスターと賞状

CINP の方のポスターはフリーディスカッション形式でした。発表時間はありませんでしたが、11:30~13:00 のランチの時間と同時にポスターセッションがありました。普段の生活の中で、英語を話す機会は余りありませんので、英語で質問されたときの対策として、ポスター全体の説明や想定質問を英語で答えられるよう準備をしていましたが、英語での質問が余り無く、少し残念でした。もっと積極的に自分から話しかければ良かったと後悔しています。初めての海外でいろいろと恐縮してしまっていました。次の海外での学会発表の際には、話す機会を作れるよう努力したいと思います。しかし、CINP のポスターセッションの中でも、多くの日本の方から質問やコメントをいただけたことは非常に有り難かったです。学会を通じて様々な方と交流を広げていきたいと思いました。

また、“JSNP Excellent Presentation Award for CINP 2016 Seoul”という賞（写真5）をいただくことができ、非常に光栄に思っております。この賞を励みに今後とも一層、研究活動に精を出していきたいです。

5. 最後に

今回、国際交流基金の助成により韓国のソウルにて開催された、第46回日本神経精神薬理学会（JSPN）年会と第30回国際神経精神薬理学会（Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologicum: CINP）世界大会においてポスター発表を行うことができ、非常に貴重な体験をさせていただきました。私にとって初めての海外であり、まず、空港から宿泊先や学会会場に行くことさえ、大変であると感じました。今までの日本の学会でも英語のポスターで発表することや、英語のセッションを聞くことはありましたが、英語でコミュニケーションを取ることはなく、その難しさを痛感しました。英語を話すことも、聞き取ることも難しく感じ、今後、研究者として生きていくためには、今すぐにでも日常英会話くらいはマスターしたいと考えています。

最後に、このような機会を与えて下さった、大野行弘教授およびご支援いただいた多くの方々に、心からの感謝を表し、報告とさせていただきます。



写真 6、ソウル市内の夜景